

訪日外国人旅行者向け 関西統一交通パス「KANSAI ONE PASS」のデータ分析結果を公表します。
～訪日外国人旅行者の関西への誘客・回遊促進を目指して～

近畿運輸局、関西観光本部(以下、観光本部)および関西経済連合会(以下、関経連)は、このたび訪日外国人旅行者(以下、訪日客)向け関西統一交通パス「KANSAI ONE PASS」の利用実績等のデータ分析結果を取りまとめました。昨年同様に、関西の交通事業者、関西エアポート(株)にもご協力をいただき、「KANSAI ONE PASS」の乗降履歴データ^{※1}、利用者アンケート^{※2}、専用WEBサイトのアクセスデータ^{※3}を使用し、昨年の分析結果との比較など、多角的に分析しております。

※1:2017年4月～12月利用分の約134,000枚分のデータ、※2:2018年1月～3月利用者の549サンプル

※3:2017年4月～12月利用分の約20万ユーザー、約140万ページビュー

【トピックス】

① 「KANSAI ONE PASS」の利用者は昨年の3倍【p1～p7】

<「KANSAI ONE PASS」の利用状況> 4-12月利用枚数:133,892枚(42,130枚)

平均利用日数:5.2日(5.5日)、平均利用回数:31.1回(32.5回)、

平均利用額:4,638円(5,090円)、平均チャージ回数:2.6回(2.2回) ()は2016年度

- ・「大阪・京都・奈良」相互間の移動が増加し、奈良県への訪問者数の伸びが際立つ。
- ・府県別の滞在時間では大阪府が約61時間で最大。京都府は昨年比4時間超増の約30時間。
- ・京都市、奈良市を訪れた利用者の宿泊地は、昨年と比較すると、京都府が増加した。
- ・販売額を下げた(3,000円→2,000円)ことにより、短期利用のユーザーにも購入されたことがうかがえる。

② 2016年「KANSAI ONE PASS」購入者の約3割がリピーターに【p9】

- ・リピーターは長期滞在・高額利用・広域利用の比率が高い傾向。
- ・周遊拡大には、リピーターの獲得に向けたプロモーション等の仕掛けが必要と考えられる。

③ 「KANSAI ONE PASS」は、非常に好評【p11】

- ・利用者の約9割が「大変満足」「満足」と回答。同じく約9割が「共通パスの利便性」を評価している。
- ・他方、約7割が「他のお得なきっぷ等を併用」と回答。利用者は目的・訪問先に応じてうまく使い分けている。
- ・利用者が更に望むこととしては、優待特典の充実とIC利用エリアの拡大が上位に挙がった。

近畿運輸局、観光本部、および関経連では、これらのデータ分析結果をもとに、さらなるインバウンドの促進に向けて、体制の充実や、訪日客の周遊・消費の拡大、満足度向上に関する対策を検討・実施し、関西における広域周遊観光の推進に努めてまいります。

[添付資料] 「KANSAI ONE PASS」の概要、「KANSAI ONE PASS」利用実績等データ分析(概要)

<「KANSAI ONE PASS」の概要>

平成28年4月から約1年間の実証実験で約60,000枚を販売した「KANSAI ONE PASS」は、昨年4月からレギュラー販売に移行し、平成30年度は発売額を昨年度の2,000円から3,000円に変更しています。



平成29年度2,000円券



平成30年度3,000円券

(c)Tezuka Productions

1. 名称 「KANSAI ONE PASS」(関西ワンパス)
2. 発売期間 平成29年度…平成29年4月17日～
平成30年度…平成30年4月16日～
3. 価格 平成29年度…2,000円(デポジット500円+利用額1,500円)
平成30年度…3,000円(デポジット500円+利用額2,500円)
※チャージ上限20,000円まで
4. 販売条件 訪日外国人のお客様に限定して販売 ※販売時にパスポートを確認
(日本国以外の政府等が発行した旅券を有し、「短期滞在」に該当する在留資格を有するお客様に限り、ご購入、ご利用できます)
5. 券面デザイン 関西にゆかりのある手塚治虫氏のイラスト「鉄腕アトム」を起用
6. 販売箇所 関西空港、京阪神などの各社局主要駅19箇所
7. 利用可能エリア 「ICOCA」エリアや「PiTaPa」エリアなど、「ICOCA」利用可能エリア(鉄道・バス)
8. 主な特長
 - ・JR西日本の「ICOCA」をベースとしたチャージ式交通ICカード。
 - ・カードの提示により、関西国際空港内の約40店舗を含めた約300箇所のショッピング施設や観光スポットにおいて優待特典が受けられます。
 - ・専用のWEBサイト(<http://kansaionepass.com>)において、「KANSAI ONE PASS」の利用方法、優待特典情報および関西の観光情報(約500箇所)を確認できます。
 - ・カード販売時に、関西広域の鉄道路線マップ付き利用ガイドを配付します。利用ガイドには、上記WEBサイトに誘導するQRコードを掲載しています。
 - ・上記WEBサイトおよび鉄道路線マップ付き利用ガイドは、英語、中国語(簡体字、繁体字)、韓国語の4言語に対応しています。
9. 販売実績 平成28年度(実証実験)…約60,000枚
平成29年度…約181,000枚

以上

関西統一交通パス「KANSAI ONE PASS」 利用実績等データ分析(概要)

2018年5月

■ 概要

関西の鉄道9社局(西日本旅客鉄道・阪神電気鉄道・阪急電鉄・京阪電気鉄道・近畿日本鉄道・南海電気鉄道・大阪市交通局(現:Osaka Metro、大阪シティバス)・神戸市交通局・京都市交通局)、一般財団法人関西観光本部および公益社団法人関西経済連合会が、関西への訪日外国人旅行者(以下、「訪日客」という。)向けに、訪日客向け関西統一交通パス「KANSAI ONE PASS」を2016年4月から試験的に販売、2017年4月から本格導入した。なお、2017年の本格導入にあたり、2016年は3000円(うちデポジット500円)であった販売額を2000円(うちデポジット500円)に変更した。

交通系ICカードである「KANSAI ONE PASS」の利用実績等データを経年比較も含めて分析するとともに、今回は初めてリピーターの特長についても着目し、さらなる訪日客の満足度向上および関西広域への観光拡大に向けた施策の方向性について検討を行った。

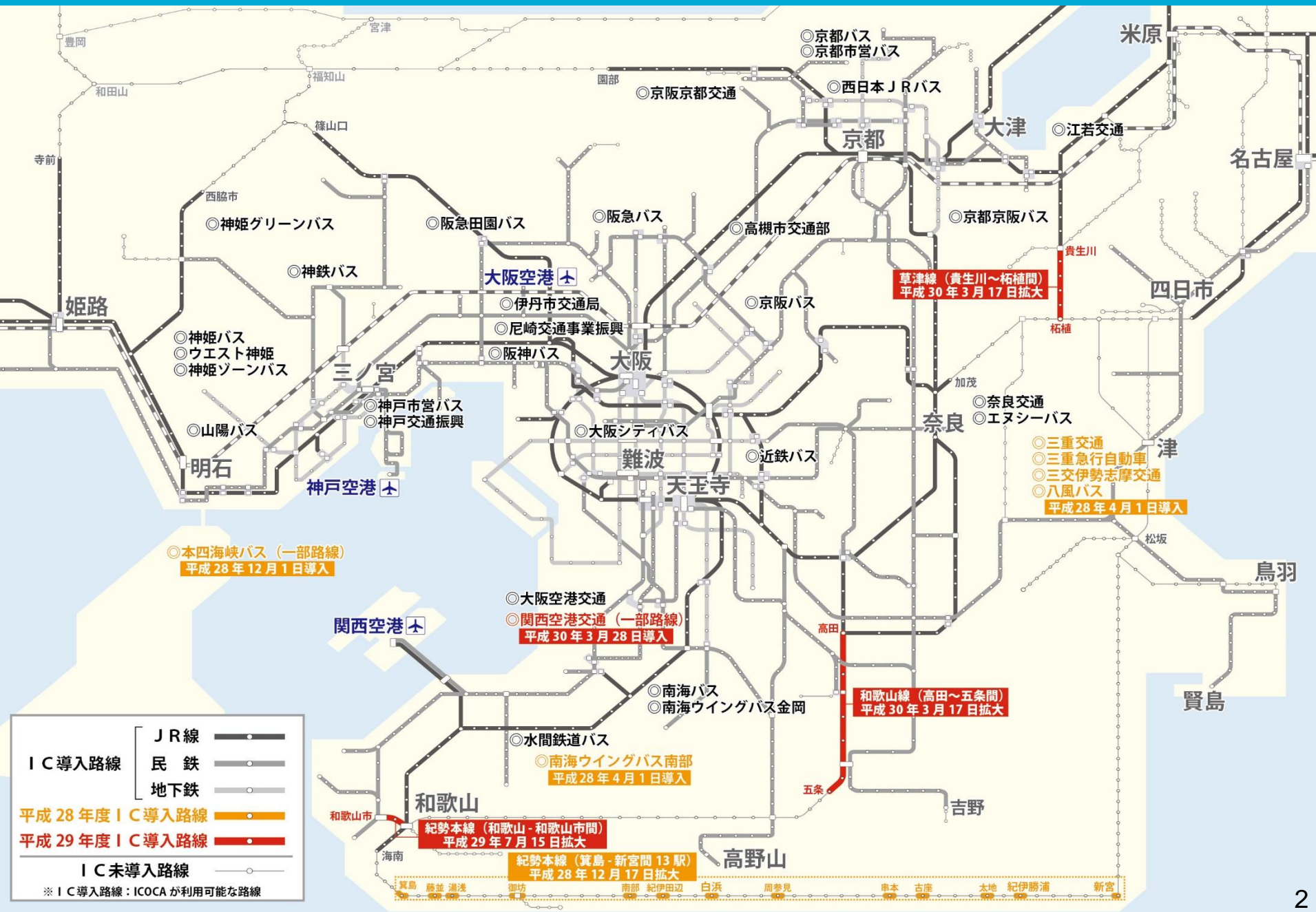
■ 目次

利用状況の分析	...p3~5	周遊状況の分析	...p6,7
鉄道駅間流動分析	...p8	リピーターに着目した分析	...p9
WEBサイトアクセスデータの分析	...p10	利用者アンケートの分析	...p11
「KANSAI ONE PASS」のトピックスと総括	...p12		

■ 使用データ []内は、2016年の調査

- ✓ データ期間:2017年4月~12月 [2016年4月~12月]
- ✓ ICカード利用者数(サンプル数):133,892 [42,130]
- ✓ 延べICカード利用回数(レコード数):4,169,273 [1,367,823]
- ※レコード内訳:鉄道入場1,715,271 [566,054] 鉄道出場1,715,271 [566,054] バス乗降228,167 [79,799] 物販125,364 [53,790] チャージ350,205 [94,552] 他

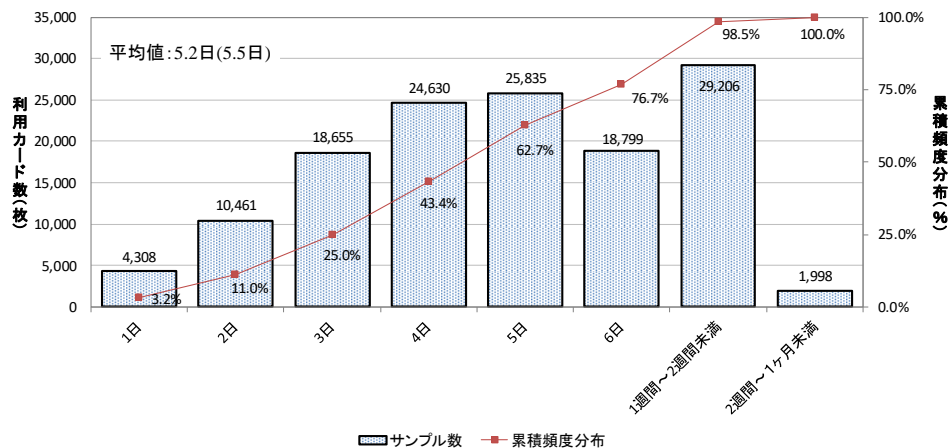
近畿圏におけるICカード利用可能エリア



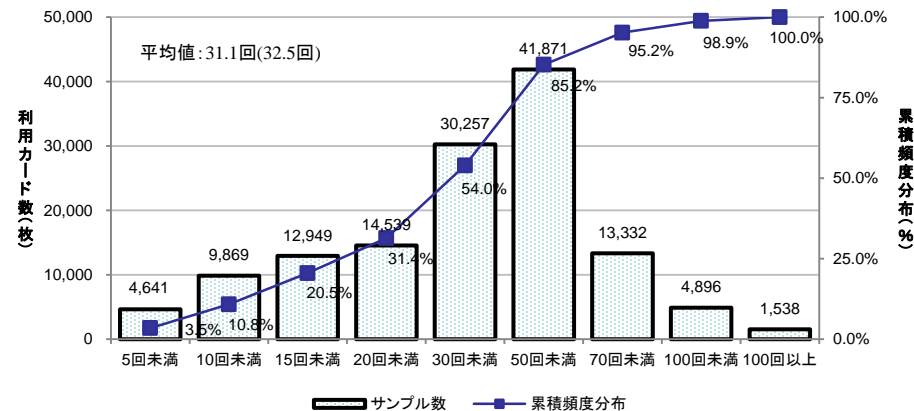
「KANSAI ONE PASS」の利用状況の分析①

- カード利用日数は、「1週間～2週間未満」の利用者が最も多く、次いで「5日」。平均で5.2日(5.5日)。
- カード利用回数は一回の旅行あたりで、「30回以上50回未満」の利用者が最も多く、次いで「20回以上30回未満」。平均で31.1回(32.5回)。
- カード利用金額は、「5,000円以上10,000円未満」の利用者が最も多く、次いで「3,000円以上5,000円未満」。平均で4,638円(5,090円)。 ※ いずれも()内は、2016年の数値

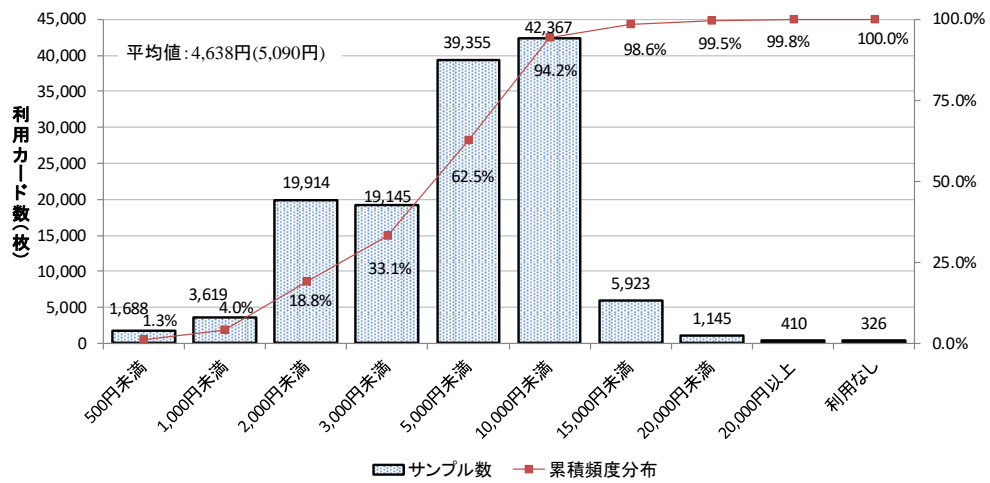
【カード利用日数】



【カード利用回数】



【カード利用金額】

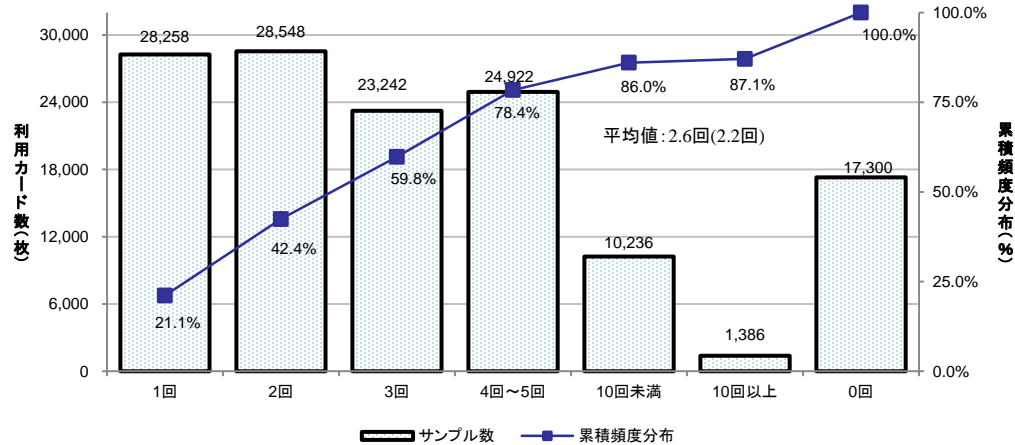


「KANSAI ONE PASS」の利用状況の分析②

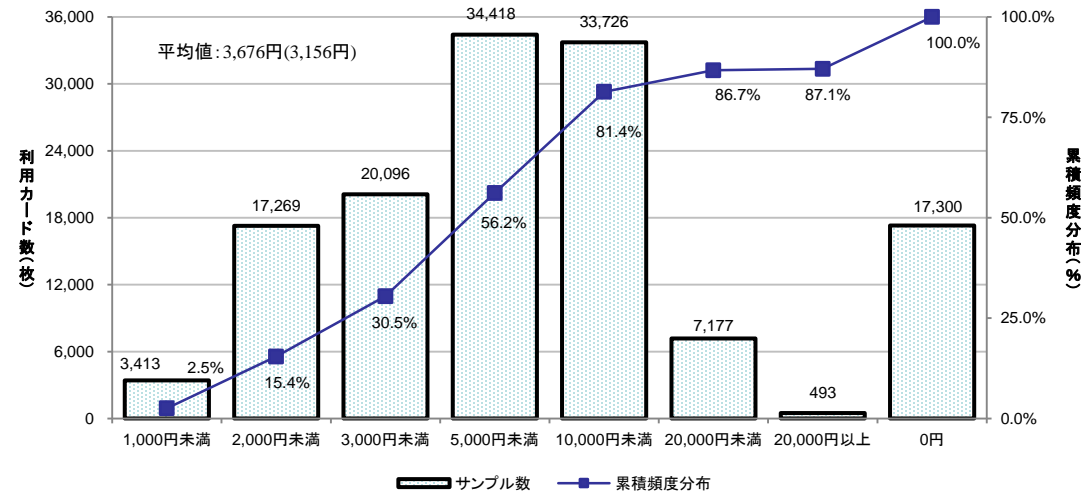
○チャージを行った利用者が約87%と2016年(約78%)に比べ約10ポイント増加し、回数は、「1回~2回」の利用者が全体の約42%を占めている。

○一回の旅行あたりのチャージ額は、「3,000円以上5,000円未満」の利用者が最も多く、次いで「5,000円以上10,000円未満」。平均で3,676円。

【チャージ回数】



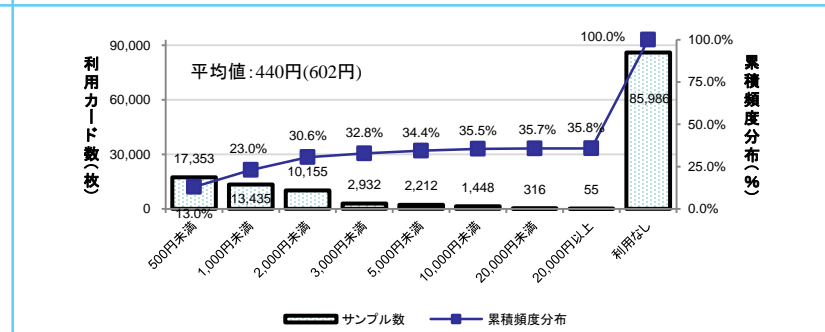
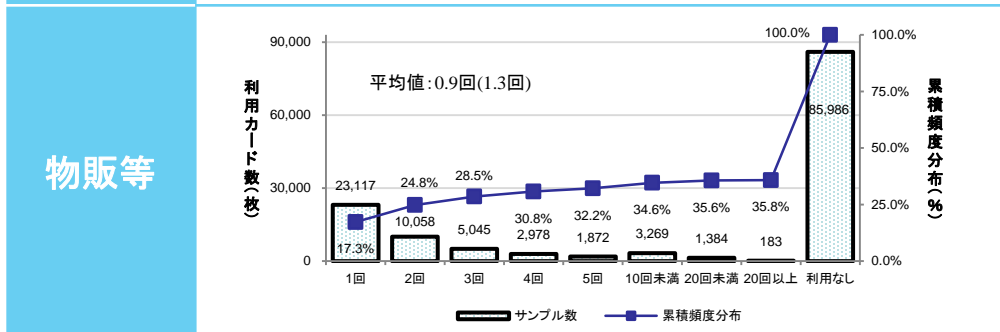
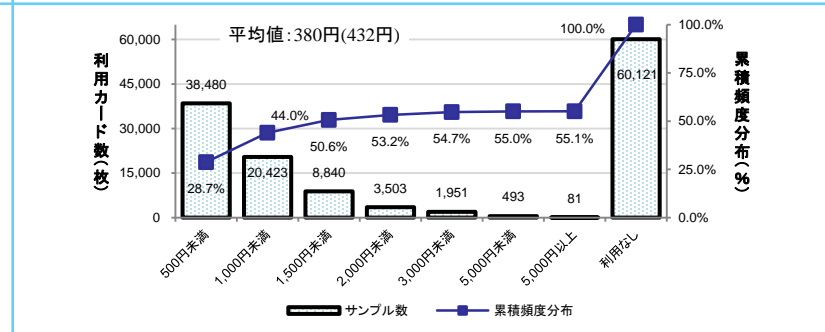
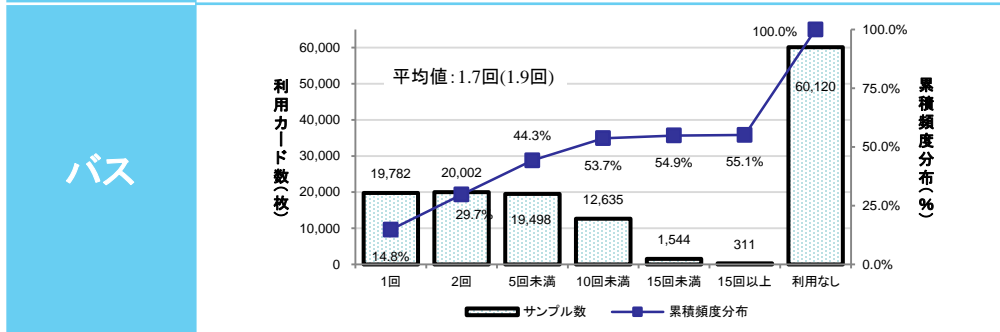
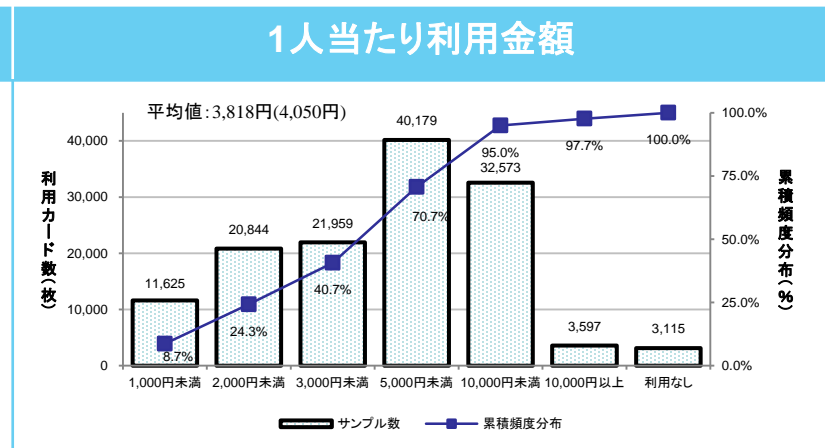
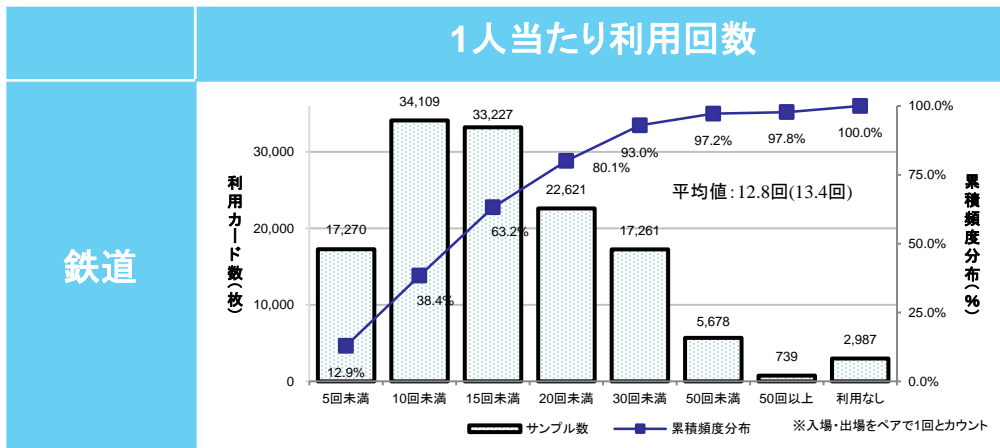
【チャージ額 一回の旅行あたり】



※ いずれもグラフ中()内は2016年の数値

「KANSAI ONE PASS」の利用状況の分析③

- 鉄道の平均利用回数は12.8回(13.4回)、平均利用金額は平均3,818円(4,050円)。
- バスの平均利用回数は1.7回(1.9回)、平均利用金額は380円(432円)。
- 物販等の平均利用回数は0.9回(1.3回)、平均利用金額は440円(602円)。 ※ いずれも()内は、2016年の数値

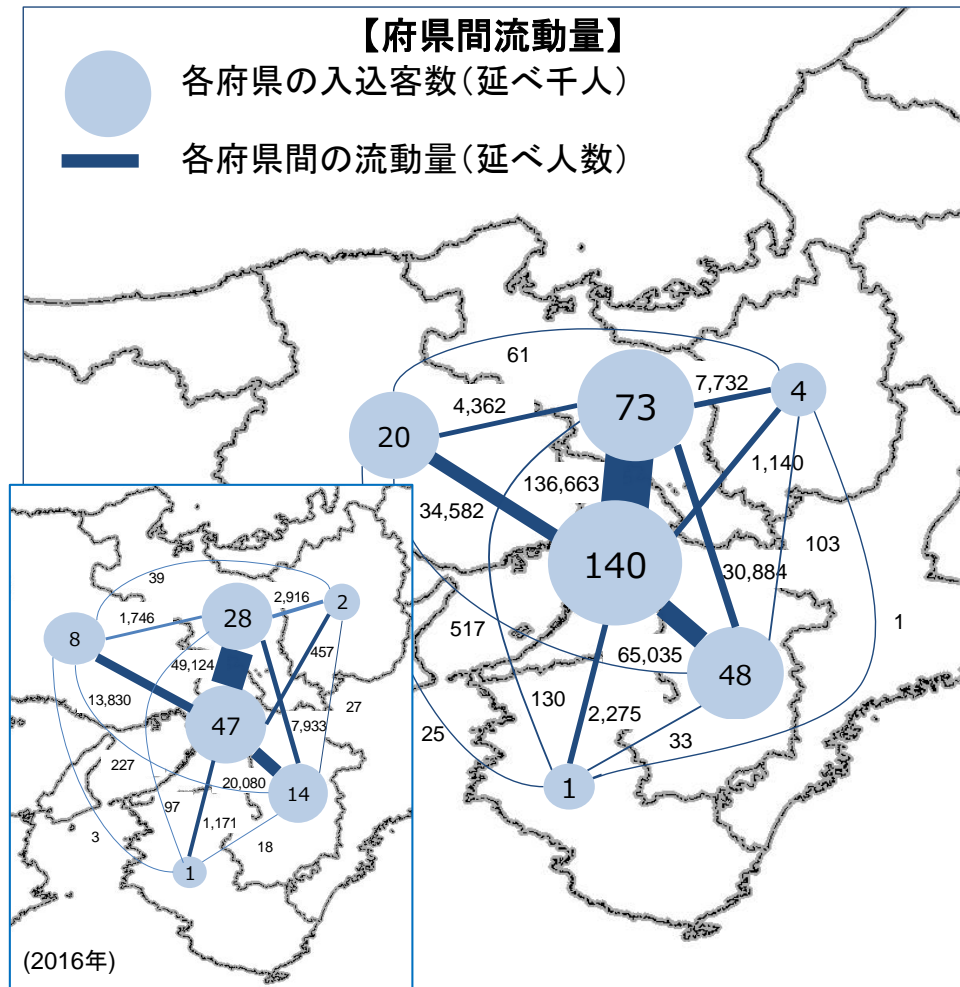


「KANSAI ONE PASS」を利用した周遊状況の分析①

- 「KANSAI ONE PASS」を利用した関西2府4県内の府県間流動量は、大阪-京都間の約13万7千トリップが最多。2016年に比べ、「大阪・京都・奈良」相互間が増加、奈良県への訪問者の伸びが際立つ。
- 訪問府県数は、関西2府4県内で3府県以上を訪問した利用者は約4割。
- 府県別の滞在時間(中央値)は、大阪府が約61時間で最大、奈良県が約5時間で最小。京都府が2016年比4時間超増の約30時間。

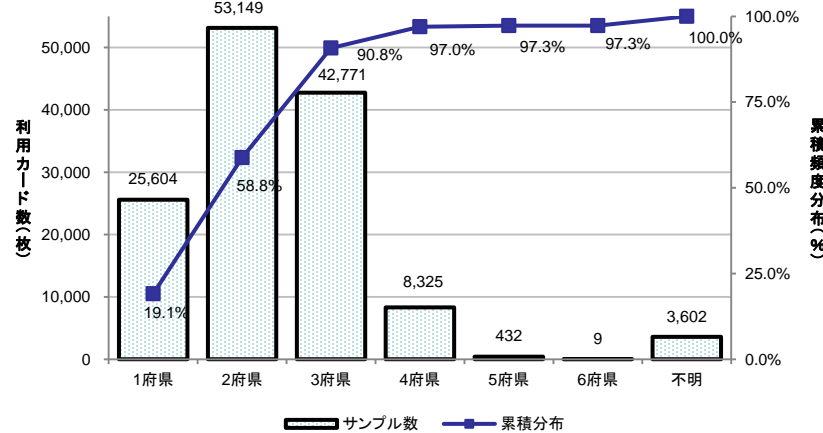
【府県間流動量】

- 各府県の入込客数(延べ千人)
- 各府県間の流動量(延べ人数)

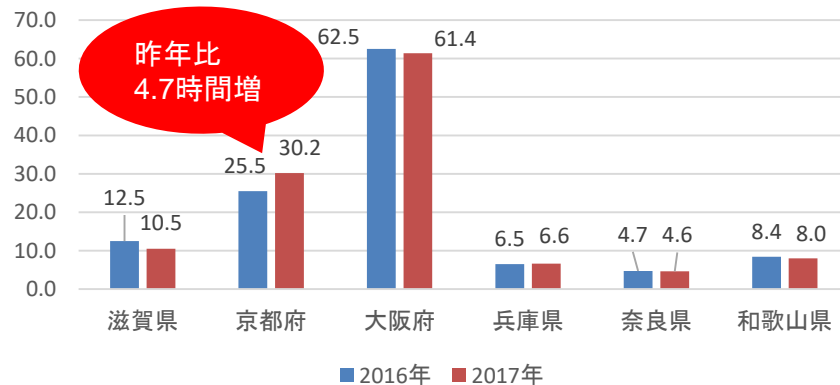


※鉄道乗降駅の所在地で府県を特定し、府県間の流動量を集計

【訪問府県数】



【府県別滞在時間(中央値)】

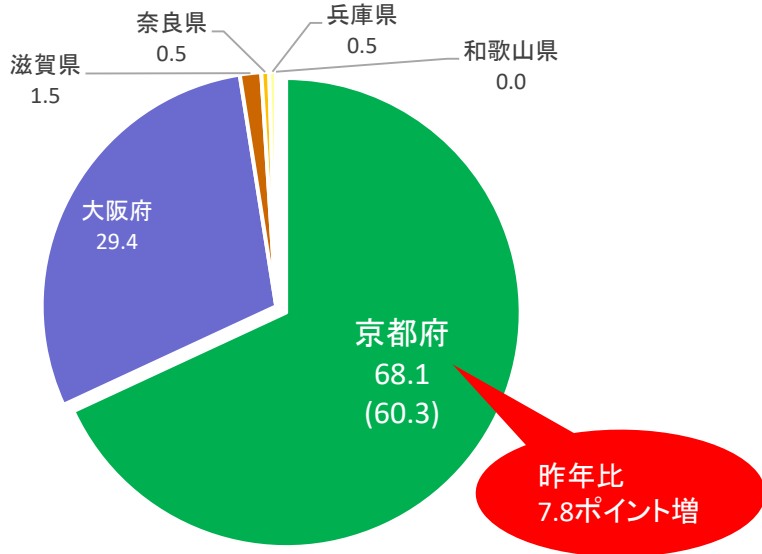


※ 鉄道乗降駅の所在地で府県を特定し、鉄道出場と次回入場が同一府県の場合に、出場時刻と次回入場時刻の差分を当該府県での滞在時間としてカウント
 ※ 滞在時間の極端に長い外れ値が存在するため、平均値ではなく中央値で集計

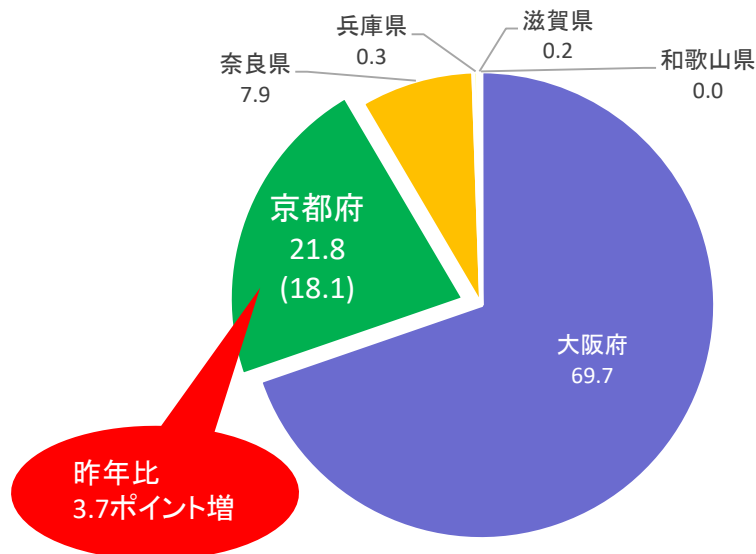
「KANSAI ONE PASS」を利用した周遊状況の分析②

- 交通系ICカードデータの特性として、同一サンプルの鉄道利用を連続して追跡できる点があげられる。その特性を活かし、京都市、奈良市を日中観光した旅行者がその日の最後にどのエリアで降車しているか(≒宿泊しているか)を把握した。結果、両者とも最終降車駅を京都府とする者の割合が、2016年に比べて増加した。
- 京都市を日中に訪問した旅行者のその日の最終降車駅は、京都府が68.1%で最も多く、2016年(60.3%)から7.8ポイント増加した。
- 奈良市を日中に訪問した旅行者のその日の最終降車駅は、大阪府が69.7%で最も多く、次いで京都市の21.8%で、2016年(18.1%)から3.7ポイント増加した。

【京都市訪問当日の最終降車駅分析】



【奈良市訪問当日の最終降車駅分析】



※京都市: 昼間(10時~17時台)にJR西日本京都駅で降車したサンプルについて、同日の最終降車駅を抽出し最終降車駅が所在する市区町村で降車客数を集計

※奈良市: 昼間(10時~17時台)にJR西日本奈良駅、近鉄奈良駅で降車したサンプルについて、同日の最終降車駅を抽出し最終降車駅が所在する市区町村別に降車客数を集計

「KANSAI ONE PASS」を利用した鉄道駅間流動分析

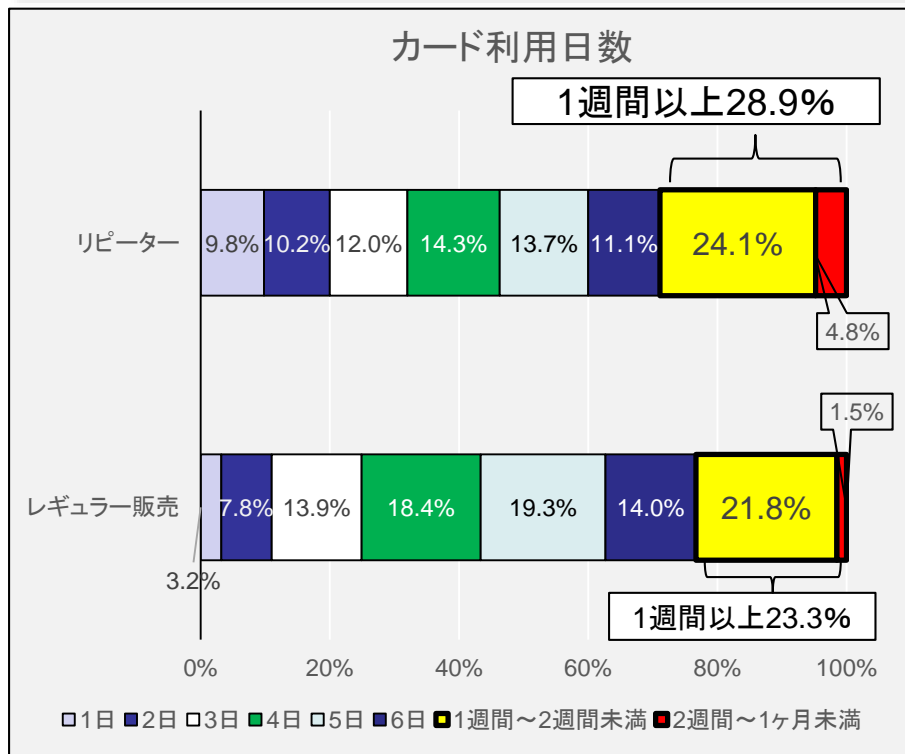
- 鉄道の駅間利用者数は、引き続き、難波・梅田・心斎橋エリアの利用が最も多く、次いで京都エリア、関西空港、ユニバーサルシティとなっている。
- 新たに嵯峨嵐山・伏見稲荷・祇園四条・近鉄日本橋を発着する流動が上位に浮上した。

【2017年駅間流動量(ペア上位20位)】

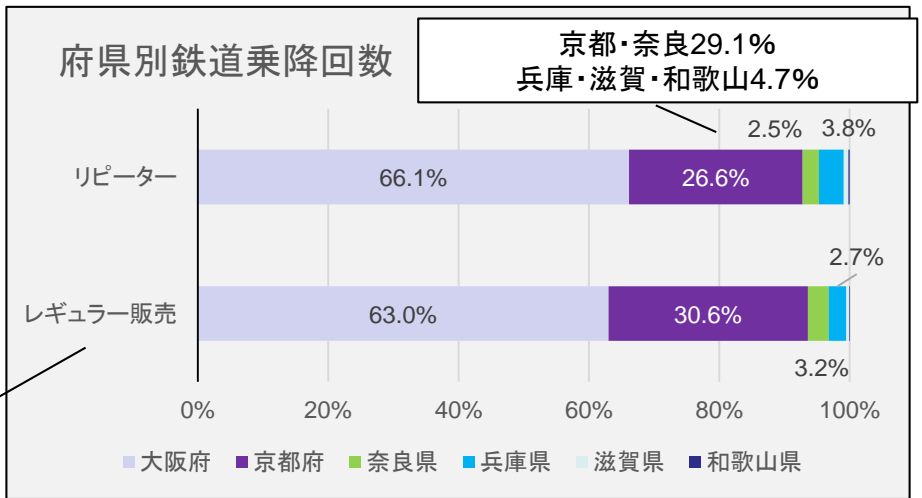
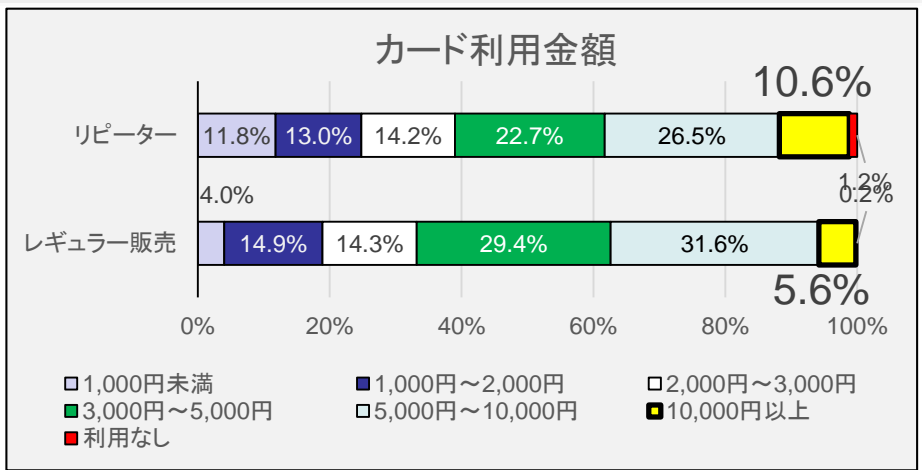
乗車駅		降車駅	
事業者名	駅名	事業者名	駅名
大阪市交通局	梅田	大阪市交通局	なんば
大阪市交通局	梅田	大阪市交通局	心斎橋
大阪市交通局	なんば	大阪市交通局	梅田
京都市交通局	京都	京都市交通局	四条
JR西日本	京都	JR西日本	大阪
京都市交通局	四条	京都市交通局	京都
南海電気鉄道	難波	南海電気鉄道	関西空港
JR西日本	京都	JR西日本	稲荷
JR西日本	稲荷	JR西日本	京都
JR西日本	ユニバーサルシティ	JR西日本	西九条
JR西日本	西九条	JR西日本	ユニバーサルシティ
大阪市交通局	心斎橋	大阪市交通局	梅田
近畿日本鉄道	近鉄奈良	近畿日本鉄道	大阪難波
JR西日本	嵯峨嵐山	JR西日本	京都
JR西日本	京都	JR西日本	嵯峨嵐山
南海電気鉄道	関西空港	南海電気鉄道	難波
阪神電気鉄道	西九条	阪神電気鉄道	大阪難波
京阪電気鉄道	伏見稲荷	京阪電気鉄道	祇園四条
近畿日本鉄道	大阪難波	近畿日本鉄道	近鉄奈良
近畿日本鉄道	近鉄日本橋	近畿日本鉄道	近鉄奈良

「KANSAI ONE PASS」リピーターに着目した分析

- 2016年度に販売されていたKANSAI ONE PASS(3000円券)の2017年利用分(約18,000枚分のデータ)をリピーターと定義し、2017年レギュラー販売と比較。
- 2016年度販売枚数(約60,000枚)の**約3割がリピーター**であると推測。
- リピーターのカード利用日数は1週間以上の割合が28.9%でレギュラー販売より5ポイント以上多い。
- リピーターのカード利用金額で10,000円以上の高額利用者が10.6%とレギュラー販売(5.6%)の2倍近い割合。
- リピーターの訪問先は、レギュラー販売よりも、「京都府・奈良県」の比率が低く、「兵庫県・滋賀県・和歌山県等」の比率が高い。
- **リピーターは、滞在日数が長く・利用金額が多く・広域に周遊する層が一定増加する傾向が認められた。**



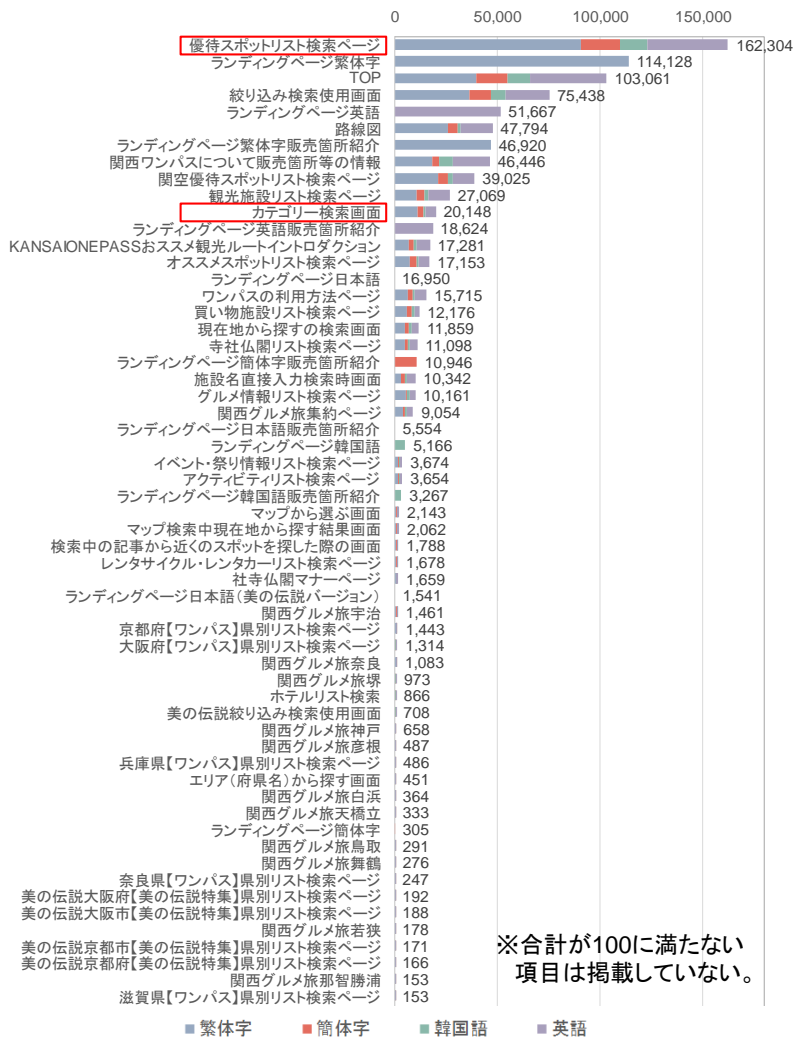
京都・奈良33.8%
兵庫県・滋賀・和歌山3.2%



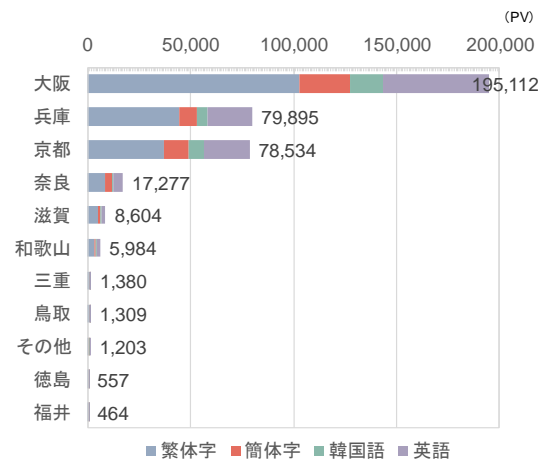
「KANSAI ONE PASS」WEBサイトのアクセスデータの分析

2017年4月～12月アクセス分(約20万ユーザー、約140万ページビュー)を対象に集計。
 ○「優待スポッリスト検索ページ」のページビュー数(PV数)が多い。観光スポット別のPV数を見ても、優待特典の付いているスポットがPV数の上位を占めており、優待特典への関心の高さがうかがえる。(2016年と同様の傾向)
 ○観光スポット情報ページのPV数は、大阪府、兵庫県、京都府の3府県で9割以上。

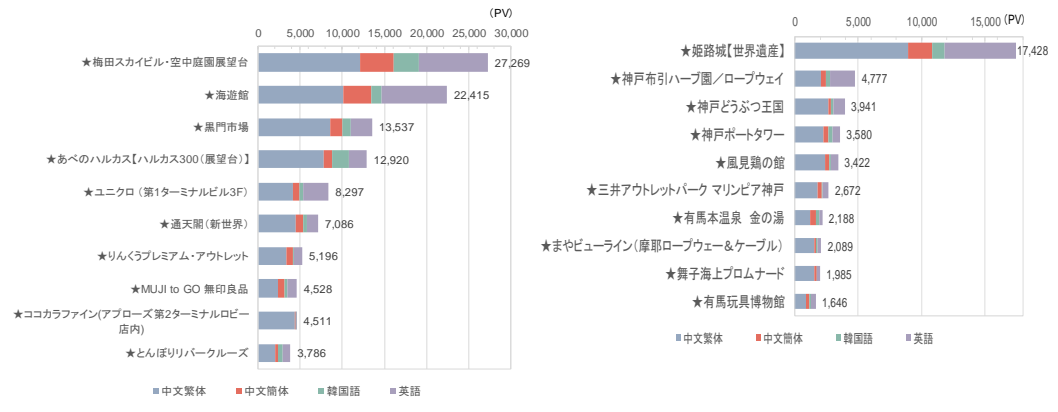
【ページ種類別のPV数】



【観光スポット情報ページのPV数(府県別計)】



【観光スポット別のPV数(左:大阪府、右:兵庫県)】



※合計が100に満たない項目は掲載していない。

※★は「KANSAI ONE PASS」を提示することで優待特典を受けられるスポット

「KANSAI ONE PASS」利用者アンケートの分析

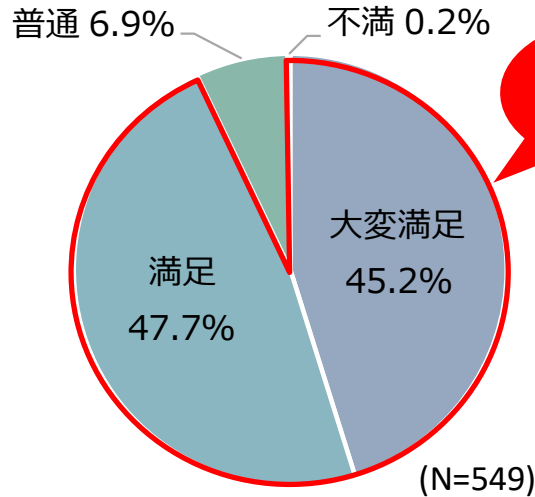
2018年1月～3月利用者の549サンプルで利用者アンケート(WEB)を行った。

○「KANSAI ONE PASS」利用者の満足度は総じて高く、共通パスとしての機能が評価されており、一定のリピーターの獲得に繋がっていると推測される。一方、引き続き優待特典の充実、利用エリアの拡大が改善点としてあげられている。

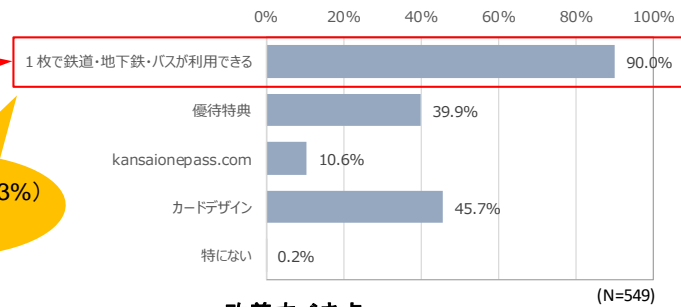
○「KANSAI ONE PASS」利用による訪問地点の増加(2016年平均2.9箇所増⇒2017年平均3.1箇所増)も回答に現れている。

○約7割が「他のお得なきっぷ等を併用」と回答しており、利用者は目的・訪問先に応じてうまく使い分けている。

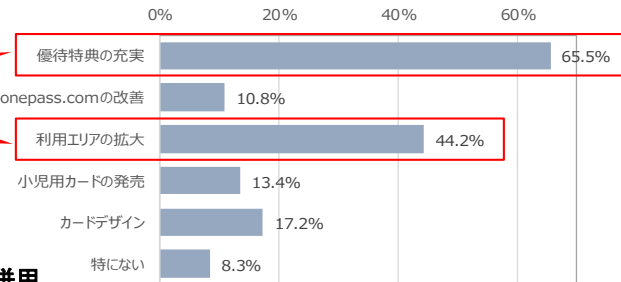
KANSAI ONE PASSの満足度



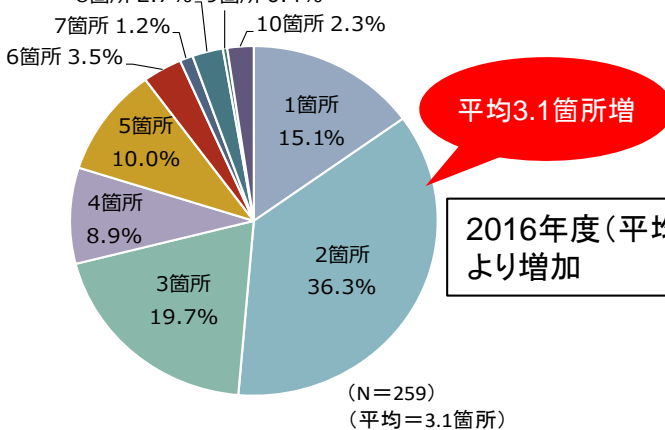
満足した点



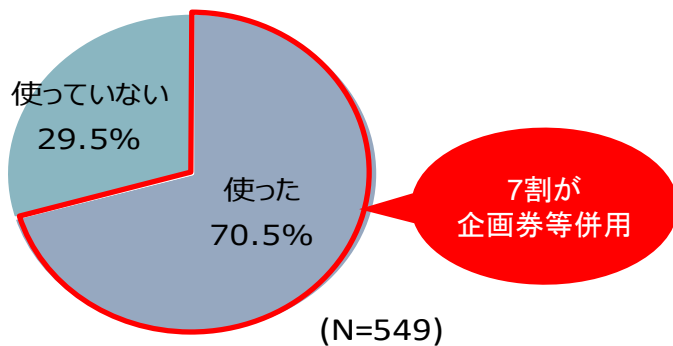
改善すべき点



増えた訪問地点数



他のお得なきっぷやフリーパスの併用



「KANSAI ONE PASS」のトピックスと総括

「KANSAI ONE PASS」データ分析のトピックス

①販売実績・利用実績が大幅に増加

- ✓ 年間販売実績は約181千枚(2016年比3倍以上)、分析対象期間のカード利用者数、カード利用回数約3倍に。
- ✓ 販売額を下げた(3000円→2000円)ことにより短期利用のユーザーが増加。
- ✓ 京都府での滞在時間が2016年比4時間超増の約30時間、宿泊先としても増加傾向。
- ✓ ICカードの利用エリア拡大が、広域な周遊を誘発。

②2016年「KANSAI ONE PASS」購入の約3割はリピーター

- ✓ リピーターは、レギュラー販売に比較して長期滞在・高額利用・広域利用のユーザー比率が高い傾向。

③「KANSAI ONE PASS」は、非常に好評

- ✓ 利用者の約9割が「大変満足」「満足」と回答。「共通パスの利便性」が高く評価されている。
- ✓ 他方、約7割が「他のお得なきっぷ等を併用」と回答。利用者は目的・訪問先に応じてうまく使い分けている。



「KANSAI ONE PASS」のデータ分析から導き出された方向性

・リピーターは、滞在日数も長く、消費額も多く、広域に周遊する傾向があるため、関西を中心としたエリアでの一層の周遊拡大に向け、官民一体となって次のような施策を検討。

1. リピーターを意識したPR・プロモーション等の仕掛け
2. 交通系ICカードの利用可能エリアの拡大など、一層のシームレス化の促進
3. 「KANSAI ONE PASS」など、訪日外国人のニーズに合致した企画乗車券等の継続・利便性向上